

令和6年2月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和6年2月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

第96回選抜高校野球大会の出場32校を決める選考委員会が開かれ、八戸学院光星と青森山田の青森県勢2校が選ばれました。光星は5年ぶり11度目、青森山田は8年ぶり3度目のセンバツで、県勢のセンバツ2校同時出場は、同じく光星と青森山田が選出された2016年以来、2度目となります。

発表当日、光星の選手たちが校内のオープンスペースからオンラインで選考委員会の様子を見守る中、3番目に学校名が呼ばれると拍手が沸き起こり、中庭では歓喜と共に帽子を高々と投げ、喜びを表現していました。

3月18日の開幕まで残り約1カ月。青森県勢の甲子園での活躍を願い、全力で応援しましょう！

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 2月号 レポート

令和6年1月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市中心街「みちニワ」調査結果
(2)	八戸旧柏崎小跡地 三社大祭山車展示・制作施設 3月完成へ工事着々
(3)	国際物流拠点化推進協議会ミッション団 韓国を視察 八戸港PR
(4)	八戸市職員が窓口利用体験調査 市民への負担減へ改善策も
(5)	八戸市立小中学校 勤務時間外電話対応 2024年度から自動音声化

【産業】

記事	概要
(6)	台湾からの観光客歓迎 チャーター便運航で青森県
(7)	縄文土偶のグミ開発中 八戸・丸美屋、市の助成事業活用
(8)	八戸でカキ試験養殖 徳島の企業 地元主体の事業化探る
(9)	愛知のコンサル企業代表 八戸にオフィス開設
(10)	ノルウェー在日大使 八戸訪問「水産物消費拡大へ協力」

【地域】

記事	概要
(11)	八戸えんぶり完全復活 2月17～20日 通常開催
(12)	「朝市仲間」輪島にエール 八戸「冬の朝市」会場に募金箱
(13)	大谷クラブに感激 八戸市内小学校にも届く
(14)	中心街活性化 八工大生が報告会 学生が考える解決策は
(15)	八戸出身・浜飯政美さん開発「水習字」墨使わない手軽さ話題
(16)	ふれ愛プラザあおば（八戸） アイデアで人気商品続々

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	フラット八戸 条例適用枠の一般滑走 氷上にプロジェクションマッピング
(18)	レスリング女子53キロ級 藤波朱理選手 五輪4連覇伊調さんの薫陶受け
(19)	藤井フミヤ展 八戸市美術館で開催
(20)	アイスホッケー日本選抜に八戸市児童3人 世界大会へ

【行政】

記事	
(1)	<p>八戸市中心街「みちニワ」調査結果</p> <p>八戸市は昨年実施した、中心街メインストリートの車線を減らし人の滞在空間を設けた実証試験「みちニワ」の調査結果をまとめた。キッチンカーの出店や音楽ライブなどで人出の増加や回遊性の向上が見られた一方、断続的な交通渋滞が発生。アンケートでは、街なか人が人中心の空間になることや休憩スペースの開設に7～8割が肯定的だったが、歩道が広がることへの賛成意見は半数にとどまった。市は、実証試験で得られたデータや課題を基に、藩政時代から続く街区の特徴を生かしながら沿道関係者と議論を深めていく考え。</p>
(2)	<p>八戸旧柏崎小跡地 三社大祭山車展示・制作施設 3月完成へ工事着々</p> <p>八戸市の旧柏崎小跡地で、市が整備を進める八戸三社大祭の山車展示・制作施設の完成が近づいている。3月末には工事が完了する予定で、柏崎地区連合町内会エリア6山車組が利用する方針。本格的な制作作業が始まるのは来年の三社大祭で運行される山車からとなる見通し。関係者からは、定住できる場所が確保できたことに安堵の声が聞こえる。市は今後、トイレや公園機能を備えた広場の整備も計画している。</p>
(3)	<p>国際物流拠点化推進協議会ミッション団 韓国を視察 八戸港PR</p> <p>八戸港国際物流拠点化推進協議会のミッション団が、港湾の利用促進や利便性向上のため、1月15～18日まで韓国を訪れた。八戸港の外航コンテナ定期航路は韓国の4社が展開しており、2022年のコンテナ貨物取扱量（速報値）では全体の約65%を占めている。一行は、釜山港を視察したほか、定期航路がある船会社を訪問。各社幹部らと意見を交わしながら、八戸港のPRと貿易振興に向けた今後の見通しの情報収集を行った。</p>
(4)	<p>八戸市職員が窓口利用体験調査 市民への負担減へ改善策も</p> <p>八戸市は行政手続きの簡素化につなげようと、1月17日、職員による窓口利用体験調査を行った。調査は、市デジタル推進計画（2023～25年度）に基づく「書かないワンストップ窓口」の導入に向け実施した。転入や家族の死亡を想定して、職員が「転入チーム」と「おくやみチーム」に分かれ、来庁者が実際に行う手続きを体験。想定を上回る所要時間に、来庁者の負担を実感した。市の取り組みが総務省のモデル事業にも採択され、今後総務省と協議をしながら、市民の利便性向上と業務効率化の両方を推進していく考え。</p>
(5)	<p>八戸市立小中学校 勤務時間外電話対応 2024年度から自動音声化</p> <p>八戸市教育委員会は、市立小中学校における勤務時間外の電話対応を令和6年度中に自動音声とする方針を明らかにした。教職員の業務負担を軽減し、授業準備や児童生徒に関わる時間を増やすのが狙い。2月から市内6つのモデル校で試験的に運用し、保護者や教職員の意見を募り2025年1月から全市立校での実施を目指す。県立学校では同様の対応を実施する方針だが、市町村での取り組みは県内初とみられる。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>台湾からの観光客歓迎 チャーター便運航で青森県</p> <p>新型コロナウイルスの影響で運休しているエバー航空（台湾）の青森—台北（桃園）線で、1月15日からチャーター便の運行が始まった。定期便の再開に向けた需要調査の一環。2023年度は春と秋にもチャーター便を運行しており、搭乗率はいずれも約9割と高水準だった。青森空港では15日、青森県や八戸、十和田両市の職員、観光業者らがチャーター便の到着を歓迎した。乗客は、出迎えた県内のマスコットキャラクターや一面に広がる雪景色の撮影を楽しんだ後、大型バスで冬の奥入瀬渓流や八食センターなどを巡る観光に出発した。</p>
(7)	<p>お弁当・お惣菜大賞2024 ユニバース（八戸）2商品が優秀賞</p> <p>全国スーパーマーケット協会が主催する「お弁当・お惣菜大賞2024」でユニバース（八戸）の「海の大地の贈り物 むつ湾産ほたてとごぼうの摘み揚げ」（天ぷら部門）と「八戸名産塩辛ポテトフランス」（パン部門）の2商品が優秀賞に輝いた。いずれも青森県産食材を使用。このほか、4商品も入選した。本コンテストは、スーパー、専門店、コンビニで販売される弁当や惣菜などを対象としたもので今回は1万4992件の応募の中から選ばれた。</p>
(8)	<p>縄文土偶のグミ開発中 八戸・丸美屋、市の助成事業活用</p> <p>八戸市の菓子処丸美屋が市の助成事業を活用し、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の出土品をイメージしたグミの開発に取り組んでいる。新型コロナウイルス禍で売り上げが低迷する中、新商品の展開を模索し、人気が高まっているグミ菓子の開発に乗り出した。現在は試作を重ねている段階で販売時期は未定。地元の是川遺跡出土の土偶をモチーフにした商品からスタートし、将来的には対象を遺跡群全体に広げ、地域の特色を生かした土産品の開発で活性化に貢献したい考え。</p>
(9)	<p>八戸でカキ試験養殖 徳島の企業 地元主体の事業化探る</p> <p>八戸市で、水産ベンチャー企業「リブル」（徳島県）によるカキの試験養殖が行われている。現在は八戸水産高校の栽培実習場で稚貝を育成しており、北方の海域環境に適したノウハウの蓄積を進める。市が「つくり育てる漁業」を推進する中、市内で開催された漁業者向けの勉強会で講師を務めるなど、地元の漁協や水産事業者が主体となった取り組みに進展させたい考えで、八戸沿岸部での養殖の事業化に向けた可能性を探る。民間企業による新たな試みで、水産業の再興につなげる足掛かりにしたい。</p>
(10)	<p>愛知のコンサル企業代表 八戸にオフィス開設</p> <p>ドローン事業などを手がけるコンサルタント企業「みかわ元気ものがたり」（愛知県）が、八戸市にサテライトオフィスを開設した。試行的な業務体験の機会を提供する、市の「おためしサテライトオフィス誘致事業」活用による事業所開設は2社目となった。代表の鈴木達也氏が個人事業主となり、昨年12月に十三日町に開設した「AA・D&C」で非常駐で事業を行う。青森県、愛知両県の観光、産業、文化などの相互交流にも取り組むほか、地元大学と協力した学生の企業支援も視野に入れる。今後はスタッフ雇用も目指す。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p>八戸えんぶり完全復活 2月17～20日 通常開催</p> <p>八戸地方えんぶり保存振興会は1月12日、国重要無形民俗文化財の「八戸えんぶり」（2月17～20日）を4年ぶりに通常開催することを決めた。市中心街でえんぶり組が競演する「一斉摺り」の行列の経路を新型コロナウイルス禍前と同様に戻すほか、長者山新羅神社での撮影会を再開するなど“完全復活”となる見通し。今年の一斉摺りは、昨年より3組増えて34組が参加する見込み。</p>
(12)	<p>「朝市仲間」輪島にエール 八戸「冬の朝市」会場に募金箱</p> <p>能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県輪島市の「輪島朝市」の復興を応援しようと、八戸市の館鼻岸壁朝市を運営する湊日曜朝市会が募金を始めた。関係者は「伝統ある朝市をまた復活させてほしい」と願いを込めて、八戸総合卸センター「HOCコネクト」で開催されている「冬の朝市」会場に募金箱を設置した。輪島は全国朝市サミット協議会を通して交流を深めてきた大切な朝市仲間。10月には八戸市で全国朝市サミットが開かれる予定で輪島関係者の来八も期待されていた。同会はサミットで輪島の特産品を販売したい意向。</p>
(13)	<p>大谷グラブに感激 八戸市内小学校にも届く</p> <p>米大リーグ、ドジャースの大谷翔平選手が日本国内の全小学校に三つずつ寄贈したグラブが1月中旬、八戸市内の学校にも届いた。贈られたのは、大谷選手が試合で使っているグラブと同型で小学校低学年向けサイズの右利き用二つ、左利き用一つ。「野球しようぜ！」との写真入りメッセージカードも添えられ、手にした子どもたちが憧れのまなざしで見つめていた。グラブは3月までに約2万校へ計約6万個が順次配送される見通し。</p>
(14)	<p>中心街活性化 八工大生が報告会 学生が考える解決策は</p> <p>八戸工業大は1月19日、市中心街の課題解決に向けた最終報告会を開いた。同大と市、第三セクター・まちづくり八戸は2016年度、中心街の課題解決に向けた覚書に調印しており、学生が毎年、実地調査を行って解決策を市に提言している。土木建築工学科の3年生が、景観向上や市庁前広場の再編など6テーマに分かれて授業で検討。市庁前広場にバスケットボールやスケートボードエリアを設置したり、日常的に人々が集うよう、ビアガーデンやラーメンフェスタなどのイベントを開催するなど、若者らしい感性で活性化策を提案した。</p>
(15)	<p>八戸出身・浜飯政美さん開発 「水習字」 墨使わない手軽さ話題</p> <p>八戸出身の浜飯政美さんが代表社員を務め、書道教室の運営などを手がける「合同会社イージーモード」（東京）の商品「水習字」が話題を呼んでいる。筆と水だけで書に取り組めるほか、乾くと字が消える同様の他社製品とは異なり、文字が消えないのが特長。さまざまな塗料や紙で試行錯誤を重ね開発に成功。2023年2月の発売後、SNSの投稿やテレビ番組などに取り上げられ、瞬く間にヒット商品となった。優れた文具に贈られる「日本文具大賞2023」機能部門で優秀賞に輝くなど専門家の評価も高い。10枚入りの価格は770円（税込み）でECサイトなどで購入できる。</p>

(16)	ふれ愛プラザあおば（八戸） アイデアで人気商品続々
	「ふれ愛プラザあおば」（八戸市）が運営する「就労継続支援B型事業所あおば」で、職員のひらめきと利用者の丁寧な仕事により、人気商品が次々と誕生している。「スマホタテ（スマホ立て）」という駄じゃれから発想を得て、本物のホタテ貝殻を使ったスマートフォン用スタンドの商品化を実現。SNSで話題となり、市内のみならず東京・国立科学博物館のミュージアムショップ他、出品すると売り切れとなるほどで、遠方からの購入希望の声寄せられている。丸く切った大小2枚の県産ヒバを重ねて南部せんべいに似せた「こびりっコースター」も好評。事業所の利用者は、相次ぐ注文と競争するように日々製作に励んでいる。

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	フラット八戸 条例適用枠の一般滑走 氷上にプロジェクションマッピング
	フラット八戸は、リンクの利用促進を図る八戸市の条例適用枠の一般滑走で、プロジェクションマッピングを始めた。30分に1度、銀盤に星形やハート形などの模様を映し出し、訪れた人を楽しませている。これまでも、条例適用外の一般滑走で実施していたが、料金が割高となる時間帯だけに一般客が目にする機会は少なかった。今回、複数の企業の協賛を得て、利用者にとって安価な条例適用枠での実施にこぎつけた。子どもにスケートへの興味を持ってもらい、スケートに触れる機会を増やしたい考え。
(18)	レスリング女子53キロ級 藤波朱理選手 五輪4連覇伊調さんの薫陶受け
	2023年9月の世界選手権で早々にパリ五輪代表を決めたレスリング女子53キロ級の20歳、藤波朱理選手（日体大）は、五輪4連覇で不戦敗を除き189連勝の記録を持つ八戸出身の伊調馨さん（ALSOK）の薫陶を受け、心技体に磨きをかけている。53キロ級で長身の164センチで長い手足を生かした闘いは攻守に隙が無い。男子のトップ選手も研究しつづけた伊調さんの緻密な技術を学び、組み手やタックルは手の指の角度まで意識する。同じ20歳で最初のアテネ五輪を制し、重圧やけがを乗り越えて白星を積み重ねてきた伊調さんの金言を胸に大舞台に臨む。
(19)	藤井フミヤ展 八戸市美術館で開催
	ミュージシャン藤井フミヤさんの絵画展「藤井フミヤ展 Fumiyart2024」が1月20日、八戸市美術館で開幕し、待ちわびた大勢のファンが詰めかけた。「多様な想像新世界」をテーマに、CGアートや水彩画など100点超を展示。初期作から最新作まで藤井さんの作品を概観することができる。初日は、オープニングセレモニーのほか、藤井さんと東京藝術大の日比野克彦学長によるトークイベントも行われた。展覧会は3月25日まで開催される。
(20)	アイスホッケー日本選抜に八戸市児童3人 世界大会へ
	2月にカナダで開催されるアイスホッケーの世界大会「ケベック国際ピーウィーターナメント」に、八戸市の児童3人が日本選抜の一員として出場する。選ばれたのは八戸南ジュニアのDF工藤彰良君（江陽小）、FWカ石祐貴君（城下小）、ハチクラパイレーツのFW古戸琉心君（根城小）の6年生3人。大会は15カ国計120チームが参加し、日本選抜は上から2番目の階級「ダブルAエリート」（30チーム）に出場する。国際舞台初挑戦の3人は「緊張より、楽しみに思う気持ち強い」と胸を高鳴らせる。

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

1 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

2 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

3 お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要な事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。